

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500220
法人名	社会福祉法人ふたば会
事業所名	グループホームふたばの森
所在地	新居浜市船木3001番地3
自己評価作成日	平成 26 年 5 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふたばの森は、南を眺めば、すぐ近くに昔のままの自然、北側には住宅地、学校、スーパーと「生活」する上では、とても恵まれた場所にあります。いろんな世代のスタッフと利用者とともに「楽しく笑顔のある暮らし」をおくれるようにと支援しています。日々健康管理に留意し、栄養バランスに配慮した食事、水分補給、日常的な活動をさりげなく支援しています。そのためか事業開始から発熱される方もほとんどなくみなさんお元気に生活されています。事業所内で「生活」が完結することのないように積極的に外出するように取り組んでいます。また、最近ではさまざまな問い合わせや相談が多く、事業開始から3年すぎようやく地域にGHふたばの存在が認められた様子です。事業所内のご利用者だけでなく認知症高齢者を支える一つの拠点として地域に貢献していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然の木々や鳥のさえずりが聞こえる事業所の近くには、住宅地や小・中学校があり、生活するには恵まれた立地である。管理者は事業所の設計段階から立ち上げに関わり、利用者が暮らしやすく、職員も働きやすい環境を整備している。3世代を思わせる幅広い年齢層の職員と管理者は協力をしながら、利用者の残存能力や思いを大切にしながら、生活の中での役割や外出希望などの要望に応えられるよう支援している。母体法人が古くから地域に根ざしており、4年目を迎えた事業所では、自治会の井手掃除に参加したり、地域の祭りの手伝いをしたりするなど、地域との交流を広げている。また、地域住民が畑を貸してくれたり、利用者が一人で歩いている場合には事業所へ声をかけてくれたりするなど、地域へも事業所の存在が認知され始めている。会議室には、利用者の笑顔の写真が100枚集めた「笑顔百景」を貼り、利用者の生き生きとした表情の写真を見て職員は励みや意欲の向上に繋がっている。事業所から、高齢者サロンに出向き、認知症の理解などの講義を行い、事業所へ高齢者家族の相談があったり見学に来られたりするなど、地域の社会資源としての役割を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームふたばの森

(ユニット名) どんぐり(1階)

記入者(管理者)
氏名 高橋 俊道

評価完了日 平成 26 年 5 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業開始時に職員全員でケアのあり方、思いを話し合い、自分たちの言葉で事業理念、行動指針を作成した。事業所内に意識付けのための掲示し、日々振り返りを行うことで実践できるように努めている。	
			(外部評価) 法人理念のほか、開設当初に管理者と職員が話し合い事業理念を作成している。また、職員の行動指針もあり、利用者の笑顔や喜びなど1日1日その時その時を大切に考え、利用者のありのままを受け入れ、思いに沿える支援ができるよう、日頃から職員間で話し合いながら実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の店舗へ利用者とともに買い物に行ったり、地域行事等にも参加させて頂いている。今後、もっと交流が拡大できるように努めていきたい。	
			(外部評価) 自治会の井手掃除に参加したり、地域の夏祭りの手伝いをしたりするなど、地域との交流を広げている。地域住民が畑を貸してくれたり、利用者が一人で歩いている場合には事業所へ声をかけてくれたりするなど、地域住民に事業所の存在が認知され始めている。事業所から高齢者サロンに出向き、認知症の理解などの講和を行い、事業所へ高齢者家族の相談や見学に来られるようになってきている。また、近くの保育園児の訪問があり、利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 今年は、依頼により地域の高齢者サロンにおいて認知症の人の理解や支援の方法について参加者と共に考える機会を頂いた。その後、相談等の問い合わせを多く頂き、少し地域へ貢献できたのではないかと感じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 活動報告や情報交換はできているが、さらに話しやすく率直な意見交換ができる会議になるような工夫が必要ではないかと考えている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、市担当者等の参加を得て開催している。地域から参加しやすいよう夕方に開催しているが、家族の参加が少ないため、開催日や時間の調整を検討している。会議では、スライドを使い行事に参加した利用者の様子などを分かりやすく工夫して報告するほか、参加者から助言をもらったり意見交換を行い、事業所でのサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 業務等で市役所へ行くときは、必ず担当者との意見交換に努め、法制度の動向や条例変更等の情報交換、サービス提供における助言等を頂いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の活動報告を行い、意見をもらっている。グループホームでの勤務経験の長い管理者に、市担当者から聞いてくることも多く、良好な協力関係を築いている。また、利用者の話を傾聴するため、2か月に1回介護相談員の訪問がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日常的に職員同士で話し合い「身体拘束をしないケアについての実践」について確認し合うように努めている。当然、玄関の常時開錠を含め身体拘束は行っていないが、言葉や抗精神薬での拘束の危険性や防止のため、今後も定期的に勉強会を開き、意識が劣化しないように取り組んで行きたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 玄関は日中開放しており、居室の窓からも庭に自由に入出ることができる。事業所への敷地の入口にセンサーを設置しているが、利用者の行動を制限するのではなく、安全を確認しながら落ち着くまで職員が見守りをするよう努めている。日頃から管理者は身体拘束等の話をしており、職員全員が身体拘束の弊害を理解して身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に外部研修への参加や内部研修を開催し、学ぶ機会をもうけ、虐待はもとより「不適切なケア」についての理解を深め発生防止に取り組んでいきたいと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、制度を活用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、円滑に制度活用ができるようにシステム作りを行っていききたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 左記の状況時には、時間をかけて重要箇所を十分説明するように努めている。家族等の不安や疑問点にはその都度説明を行い理解・納得していただくように配慮している。確認や申し出がない利用者や家族にはよくいただく質問等を事業所側から提案・説明し理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見、要望等は面会時などの来所時に個別に確認するように努めている。今後、家族参加の行事及び家族会等を開催し気軽に意見交換ができる場を確保していきたいと考えている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から「不安なことやどのように暮らしたいか」などを聞き、相談に応じている。家族の面会時に職員から話しかけ、意見や要望を言いやすいよう努めている。必要に応じて職員が家庭を訪問し、お願いや相談をすることもあり、家族の信頼が深まってきている。出された意見には職員全員で情報を共有し、迅速に対応するなどサービス向上に繋げている。面会できにくい遠方の家族には、管理者が電話で利用者の様子を伝えるなど、家族との関わりを大切にしている。また、日頃から利用者の意見や要望を聞き取り、些細なことでも対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ユニット会、職員会を定期的開催し、その中で提案された意見を可能な限り運用に反映できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者と職員が話し合い作成した職員の行動指針の中に、「何でも言いあえる職場にしよう」という項目があり、気軽に職員は意見や要望を伝えることができる。職員は管理者に話しやすく、管理者はできる限り職員の行いたいことができるよう対応しており、サービスの向上にも繋がっている。また、2週間に1回法人の統括施設長の訪問があり、意見を伝えることもできる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は週に1回は事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切にし、やりがいや働きやすい職場づくりに努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。OJTの取組についても今後の課題と考えシステムづくりに取り組んでいきたい。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修事業に参加させていただき、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。今後、機会をみつけ他施設・他事業所との交流も検討していきたいと考えている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に可能なかぎり複数職員で訪問し、本人の困っていること、不安なこと、要望等の確認を行っている。本人さんをよく理解することに努め、グループホーム入居という環境変化からくるダメージを少しでも軽減できるように職員の配慮事項や居室等環境づくりに努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問時に家族等に困っていること、不安なこと、要望を確認している。また、入居前に事業所へ事前見学にこられた際にも上記のような確認を行い円滑に入居できるような支援に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に「今一番困っていること」を確認するようにしている。事業所として対応可能なことについては遅滞なく対応を行い、対応困難な場合については他事業所等の活用情報の提供や紹介調整を行っている。今後も初期対応の支援が円滑にできるように情報収集とネットワークづくりに努めていきたいと考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者ができることは、なるべく自分でできるように支援している。毎食の調理下準備や共用場所の清掃などできる範囲で実施されている。今後も利用者が主体的に生活できるような取組に努めていきたいと考えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、日常生活状況の事や現状などを毎月お手紙で伝えるなどして安心していただけるように努めている。また、来所された場合は利用者と家族がよりよい関係になるように配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事や祭りへの参加など、これまでの生活の中で行っていたことを取り入れるように努めている。入居前の行きつけの散髪屋やパーマ屋、昔通ったお店等への外出支援も行い馴染みの関係の継続支援に努めている。 (外部評価) 利用者や家族から馴染みの場所や交友関係を聞き取り、馴染みの美容室や店に出かけられるよう支援している。車いすを使用している利用者にも、職員が経路などを事前に確認して家族の協力を得ながら、行きづらい場所にあるお墓参りにも行けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が生活の中で支え合うような働きかけに努めている。また、利用者間がトラブルにならないようにその都度職員が間に入りながら支援している。利用者同士が楽しく生活できるように今後も個々の状態を把握できるように努めていきたい。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 事業開始から現在まで2名の退居者があったが、そのご家族から定期的に電話等での相談をいただいている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者個々に話を聞き、なるべく一人ひとりの思いを取り入れるように努めている。すべての事を取り入れることは困難であるが、少しずつでも実現にとりくんでいきたい。 (外部評価) 利用開始前に複数の職員が自宅を訪問し、「どのような暮らしを送りたいか」など、利用者や家族と事前面接を行い、思いや生活の様子を確認している。管理者と職員は利用者の思いを大切に考え、日常の会話の中などで聞いた利用者が今行いたいことを実現できるよう支援している。また、利用者の編み物や盆栽、習字などの趣味を継続できるように働きかけている。思いの把握が困難な利用者には、表情やしぐさからくみ取ったり、返答しやすい声かけを工夫したりするなど、職員間で話し合いながらより良いサービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員は生活歴などを確認し把握するように努めている。また、本人や家族との日々の会話の中から今までの生活状況、環境を聞き取れるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの現状を職員間で把握共有できるように常に言葉かけを行いながら、一人ひとりの状態に合わせた対応ができるようにこころがけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 各ユニット会やカンファレンスでは職員間で意見を出し合い介護計画に反映していけるように努めている。今後は本人、家族等もカンファレンスに参加していただき取り組んでいきたいと考えている。 (外部評価) 利用者や家族の意向を反映し、職員の意見を聞きながら、計画作成担当者が介護計画を作成している。利用者や家族が見やすく分かりやすい介護計画にする工夫をしており、面会時などに確認してもらい同意を得ている。定期的にモニタリングを行うほか、1週間に1回生活健康管理記録で日々の記録の確認を行い評価をしている。状態の変化や要望のあった場合には、その都度見直しを行い利用者一人ひとりの状態に応じた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者ごとの生活状況について状態が把握しやすいように記録様式を工夫している。記録内容から職員間での情報共有が容易になり介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 生活を支えるということは、支援の枠組みを広げることと考えている。柔軟な支援や多機能化のためには事業所のみならず、運用についての協力者の発掘に努めていきたいと考えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 個別に活用可能な地域資源を把握し本人が主体的に活用できるように支援して行きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人の病状をよく把握している入居前のかかりつけ医への受診を継続的に支援している。また、かかりつけ医からの情報交換から医療的観察事項や介護上の注意点等の助言をいただいている。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診することができる。家族が同行する場合には、利用者の受診記録を渡し、受診結果などの情報を共有している。家族が同行できない場合は職員が受診介助をしている。同法人の隣接する特別養護老人ホームから週3回看護師の訪問があり、利用者一人ひとりの細やかな健康管理を行い、緊急時には迅速に対応できる協力体制が築かれている。また、往診可能な協力医を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 近接の特別養護老人ホームから週3回程度、看護職員に來所して頂き、利用者の健康状態の報告、相談、助言を頂き利用者ごとに適切な受診や看護を受けられようとして支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した場合は、文書にてグループホームでの生活の状況や入院までの経緯、配慮していただきたい申し送り事項等を報告している。また、円滑に入退院ができるように定期的に医療機関のソーシャルワーカーと情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期ケアについては実践事例がまだない。今後、適切な対応ができるように併設特養の看護師との連携にて勉強会の開催を行いスキルアップに努めるとともに、本人、家族との意向確認を行い終末期に備えていきたいと考えている。	
			(外部評価) 「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、状態に応じて家族と随時話し合いを行い、管理者は今後予測されることを事前に伝えている。実際に事業所で看取り支援を行った事例はないが、職員が亡くなる寸前まで事業所で支援した経験はある。利用者や家族が事業所での看取り支援を希望し、事業所の方針に同意と主治医や家族の協力が得られる場合には、利用者や家族の意思を尊重し、安心して穏やかな終末期を迎えられるよう体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や初期対応については勉強会を行い実践力の維持に努めている。消防の救急救命講習等に定期的に参加しさらなる実践力を身につけていきたいと考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練等は年2回必ず実施している。今後も定期的にさまざまな想定の実施し職員個々のスキルアップをめざしたい。近設特養とともに地域との協力体制を築いているがさらなる強化をめざしたい。 (外部評価) 自治会と防災協定を結んでおり、災害発生時に地域住民の避難場所として提供する予定としている。また、隣接する同法人の特別養護老人ホームとの災害時の協力体制もある。防災マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。訓練では、実際に2階の利用者が非常階段から避難している。災害時に職員が対応できるかどうか確認するため、消火避難訓練手順理解度チェックリストを事業所独自に作成して、職員に災害発生時に対応できるか抜き打ちで確認し、職員の防災意識を高めている。地震の発生時に備え、家具などが倒れにくい対策を取っているほか、食料等の備蓄品を用意している。	職員全員が災害時の対応手順を理解しているか具体的に書面で確認した際に、不安のある職員もいたため、職員全員が確実に利用者の避難誘導ができるよう、夜間など様々な災害を想定した訓練を繰り返し行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 訪室時や排泄誘導時、入浴支援時などプライバシーを損ねないような言葉かけには常に意識しているが、今後も個々を尊重していくように努めていきたいと考えている。 (外部評価) 日常のケアや声かけなど、あらゆる場面で大きな声を出さないよう気をつけて支援している。言葉づかいや利用者の呼び方などに注意し、利用者の尊厳の保持に努めている。居室の入口の表札は、利用者や家族と相談して苗字のみの記載にする場合もあり、プライバシー確保にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の様々な場面で自己決定・選択の機会を提供するように努めている。また、本人の思いを言葉に出せるような信頼関係を築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりのペースに合わせて生活がおくれるように努めているが、職員側の都合に合わせてしまう事がないように、今後も常に意識していきたいと考えている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 女性の入居者はお化粧されるなど、その人らしいおしゃれを楽しめるように努めている。また、本人が希望する美容院へ行けるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者とともに食事の準備から片付けまで実施している。利用者それぞれができることを無理なく実施できるように配慮し支援するように今後も努めていきたい。	
			(外部評価) ユニット毎に職員が利用者の希望を取り入れた献立を作成し、糖尿病等の利用者の食事にも対応した調理をしている。利用者は食事の準備や下ごしらえ、食器拭きなどの手伝いをしている。職員と同じ食卓を囲み、会話をしながら和やかに食事をしている。朝食の時間は特に決めておらず、利用者の起床時間に合わせて食べられるようになっている。また、お好み焼きを利用者と一緒に作ったり、そうめん流しをしたり、外食を取り入れるなど、利用者が食事を楽しめるような支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養のバランスや糖尿病の方の事も考え献立を立案している。また、毎食時の摂取量や水分量を確認し記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、言葉かけを行い口腔ケアを行っている。現状はほとんどの入居者が一部介助で行えているが、今後も毎食後に確実に実行できるように実践していく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄が行えるように支援している。オムツ使用者に対しても、日中は紙パンツ等を使用し排泄記録表や排泄徴候の観察から誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 利用者の排泄の回数や時間帯を把握して、なるべく誘導して気持ち良くトイレで排泄できるよう、一人ひとりに合わせた支援をしている。利用者がトイレに行きやすいよう導線にトイレを設置している。トイレ誘導を行うことにより、紙パンツから布パンツの使用に変更した利用者もあり、残存機能を活かしながら、オムツやパットに頼りすぎない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の処方にて緩下剤を使用している方もいるが、なるべく自然排便ができるように水分摂取量にも注意しヨーグルトやオリゴ糖、ブルーベリーなどを摂取していただき個々に合わせた対応をこころがけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の希望に合わせた入浴にこころがけている。時間帯についても入居者に尋ね、その人が入りたい時間になるべく入浴できるように努めている。利用者に応じて入眠前の入浴の実施も対応している。	
			(外部評価) 職員が入浴介助をしやすいよう左右スライドできる浴槽となっており、片側麻痺などの利用者の状態に合わせて移動して使用している。脱衣場にはカーテンがあり、利用者の羞恥心にも配慮して支援している。浴室は利用者が落ち着いて入浴でき、職員も安全に入浴介助ができる広さに設計している。利用者の状態に合わせて、特別養護老人ホームの機械浴を使用する場合もある。できるだけ利用者の希望する頻度や時間帯に入浴できるように取り組んでいる。また、入浴が楽しめるよう温泉や健康ランドに出かけるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間や起床時間については決めておらず個々の状況に合わせた対応に努めている。日中についても居室で休息したい方は自由に休めるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の種類や副作用についての情報はファイルに綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。また、処方薬が変更になった場合は必ず申し送り、状態の変化の有無を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた楽しみがもてるように生活の中で役割を持つように努めている。職員の都合で役割をもたせる事がないように努めていきたいと考えている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望や状況に応じて外出できるように取り組んでいる。今後も個別や共同で外出できる機会を増やしていきたいと考えている。 (外部評価) 法人の別施設の車を借りて、車いすの利用者と一緒に、藤や紫陽花など季節の花を見に行ったり、県外の健康ランド、夜の太鼓祭りなどに出かけられるよう支援している。日頃から利用者の希望に応じて、外食や喫茶店、買い物などに出かけるなど、一人ひとりの希望をできるだけ実現できるように支援している。「動物と触れ合いたい」という利用者の希望を実現するため県外の動物園に出かけるなど、利用者が笑顔で外出を楽しめるよう心がけている。また、事業所の近くの畑で、職員と一緒に野菜づくりをしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の意向がある場合は、家族に依頼し所持できるように依頼している。外出時、買い物等で使える機会を増やしていくように支援していきたいと考えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話については、本人の希望時には使用できるように配慮しているが、諸処の事情で全て要求どおりには対応できていない。今後、なるべく本人の希望がとおるように工夫していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) なるべく家庭生活と同じような環境になるようにこころがけ季節の花を飾ったりしながら工夫している。また、共用の空間でも個々に合わせてその都度混乱を軽減できるような物品の配置を工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者はリビングのソファに座りテレビを見ながらゆったりと過ごすことができる。管理者は事業所の設計段階から立ち上げに関わっており、利用者が暮らしやすく、職員もキッチンとリビング、食堂はどこにいても見渡しやすく、働きやすい環境を整備している。リビングと食堂は違う空間であることを利用者に認識できるようにしている。居室の並びは食堂やリビングを挟んで3部屋ずつに分ける工夫をしており、利用者に自分の居室が分かりやすいようにしている。また、事業所の入口にはAEDを設置し、地域住民も必要時には利用できるようにしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居間等の共有空間では、利用者ごとに居場所の認識が固定されているが、特定はされておらず、その日の状況に応じて利用者思い思いで過ごせるような居場所になるように工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ダンスや布団などは今まで使い慣れた物を持参していただいている。居室空間は個々が安らげる場所になるように今後も工夫していきたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 居室の入口には木の表札が掛けられている。居室は介護用ベッドと洗面台、エアコンが備え付けられている。コンセントの位置は利用者にとって使いやすい高さに設置されており、利用者の目線で使いやすい工夫をしている。利用者は使い慣れた座いすやテーブルを持ち込み、好みのレイアウトをしている。お位牌を持ちこんでいる利用者もおり、安心して居心地良く過ごせる居室づくりに努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の方がなるべく安全に生活でき、家庭と同じような環境になるようにこころがけている。今後も生活物品の配置に配慮し生活動作を誘発するような工夫を行い自立生活を支援していきたいと考えている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500220
法人名	社会福祉法人ふたば会
事業所名	グループホームふたばの森
所在地	新居浜市船木3001番地3
自己評価作成日	平成 26 年 5 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふたばの森は、南を眺めば、すぐ近くに昔のままの自然、北側には住宅地、学校、スーパーと「生活」する上では、とても恵まれた場所にあります。いろんな世代のスタッフと利用者とともに「楽しく笑顔のある暮らし」をおくれるようにと支援しています。日々健康管理に留意し、栄養バランスに配慮した食事、水分補給、日常的な活動をさりげなく支援しています。そのためか事業開始から発熱される方もほとんどなくみなさんお元気に生活されています。事業所内で「生活」が完結することのないように積極的に外出するように取り組んでいます。また、最近ではさまざまな問い合わせや相談が多く、事業開始から3年すぎようやく地域にGHふたばの存在が認められた様子です。事業所内のご利用者だけでなく認知症高齢者を支える一つの拠点として地域に貢献していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然の木々や鳥のさえずりが聞こえる事業所の近くには、住宅地や小・中学校があり、生活するには恵まれた立地である。管理者は事業所の設計段階から立ち上げに関わっており、利用者が暮らしやすく、職員も働きやすい環境を整備している。3世代を思わせる幅広い年齢層の職員と管理者は協力をしながら、利用者の残存能力や思いを大切にしながら、生活の中での役割や外出希望などの要望に応えられるよう支援している。母体法人が古くから地域に根ざしており、4年目を迎えた事業所では、自治会の井手掃除に参加したり、地域の祭りの手伝いをしたりするなど、地域との交流を広げている。また、地域住民が畑を貸してくれたり、利用者が一人で歩いている場合には事業所へ声をかけてくれたりするなど、地域へも事業所の存在が認知され始めている。会議室には、利用者の笑顔の写真を100枚集めた「笑顔百景」を貼り、利用者の生き生きとした表情の写真を見て職員は励みや意欲の向上に繋がっている。事業所から、高齢者サロンに出向き、認知症の理解などの講義を行い、事業所へ高齢者家族の相談があったり見学に来られたりするなど、地域の社会資源としての役割を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームふたばの森

(ユニット名) 2階(くるみ)

記入者(管理者)

氏名 高橋 俊道

評価完了日 平成 26 年 5 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業開始時に職員全員でケアのあり方、思いを話し合い、自分たちの言葉で事業理念、行動指針を作成した。事業所内に意識付けのための掲示し、日々振り返りを行うことで実践できるように努めている。	
			(外部評価) 法人理念のほか、開設当初に管理者と職員が話し合い事業理念を作成している。また、職員の行動指針もあり、利用者の笑顔や喜びなど1日1日その時その時を大切に考え、利用者のありのままを受け入れ、思いに沿える支援ができるよう、日頃から職員間で話し合いながら実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の店舗へ利用者とともに買い物に行ったり、地域行事・自治会活動にも参加させて頂いている。今後、もっと交流が拡大できるように努めていきたい。	
			(外部評価) 自治会の井手掃除に参加したり、地域の夏祭りの手伝いをしたりするなど、地域との交流を広げている。地域住民が畑を貸してくれたり、利用者が一人で歩いている場合には事業所へ声をかけてくれたりするなど、地域住民に事業所の存在が認知され始めている。事業所から高齢者サロンに出向き、認知症の理解などの講和を行い、事業所へ高齢者家族の相談や見学に来られるようになってきている。また、近くの保育園児の訪問があり、利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 今年は、依頼により地域の高齢者サロンにおいて認知症の人の理解や支援の方法について参加者と共に考える機会を頂いた。その後、相談等の問い合わせを多く頂き、少し地域へ貢献できたのではないかと感じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 活動報告や情報交換はできているが、さらに話しやすく率直な意見交換ができる会議になるような工夫が必要ではないかと考えている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、市担当者等の参加を得て開催している。地域から参加しやすいよう夕方に開催しているが、家族の参加が少ないため、開催日や時間の調整を検討している。会議では、スライドを使い行事に参加した利用者の様子などを分かりやすく工夫して報告するほか、参加者から助言をもらったり意見交換を行い、事業所でのサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 業務等で市役所へ行くときは、必ず担当者との意見交換に努め、法制度の動向や条例変更等の情報交換、サービス提供における助言等を頂いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の活動報告を行い、意見をもらっている。グループホームでの勤務経験の長い管理者に、市担当者から聞いてくることも多く、良好な協力関係を築いている。また、利用者の話を傾聴するため、2か月に1回介護相談員の訪問がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日常的に職員同士で話し合い「身体拘束をしないケアについての実践」について確認し合うように努めている。当然、玄関の常時開錠を含め身体拘束は行っていないが、言葉や抗精神薬での拘束の危険性や防止のため、今後も定期的に勉強会を開き、意識が劣化しないように取り組んで行きたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 玄関は日中開放しており、居室の窓からも庭に自由に入ることができる。事業所への敷地の入口にセンサーを設置しているが、利用者の行動を制限するのではなく、安全を確認しながら落ち着くまで職員が見守りをするよう努めている。日頃から管理者は身体拘束等の話をしており、職員全員が身体拘束の弊害を理解して身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に外部研修への参加や内部研修を開催し、学ぶ機会をもうけ、虐待はもとより「不適切なケア」についての理解を深め発生防止に取り組んでいきたいと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、制度を活用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、円滑に制度活用ができるようにシステム作りを行っていききたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 左記の状況時には、時間をかけて重要箇所を十分説明するように努めている。家族等の不安や疑問点にはその都度説明を行い理解・納得していただくように配慮している。確認や申し出がない利用者や家族にはよくいただく質問等を事業所側から提案・説明し理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見、要望等は面会時などの来所時に個別に確認するように努めている。今後、家族参加の行事及び家族会等を開催し気軽に意見交換ができる場を確保していきたいと考えている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から「不安なことやどのように暮らしたいか」などを聞き、相談に応じている。家族の面会時に職員から話しかけ、意見や要望を言いやすいよう努めている。必要に応じて職員が家庭を訪問し、お願いや相談をすることもあり、家族の信頼が深まってきている。出された意見には職員全員で情報を共有し、迅速に対応するなどサービス向上に繋げている。面会できにくい遠方の家族には、管理者が電話で利用者の様子を伝えるなど、家族との関わりを大切にしている。また、日頃から利用者の意見や要望を聞き取り、些細なことでも対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ユニット会、職員会を定期的開催し、その中で提案された意見を可能な限り運用に反映できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者と職員が話し合い作成した職員の行動指針の中に、「何でも言いあえる職場にしよう」という項目があり、気軽に職員は意見や要望を伝えることができる。職員は管理者に話しやすく、管理者はできる限り職員の行いたいことができるよう対応しており、サービスの向上にも繋がっている。また、2週間に1回法人の統括施設長の訪問があり、意見を伝えることもできる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は週に1回は事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切にし、やりがいや働きやすい職場づくりに努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。OJTの取組についても今後の課題と考えシステムづくりに取り組んでいきたい。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修事業に参加させていただき、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。今後、機会をみつけ他施設・他事業所との交流も検討していきたいと考えている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に可能なかぎり複数職員で訪問し、本人の困っていること、不安なこと、要望等の確認を行っている。本人さんをよく理解することに努め、グループホーム入居という環境変化からくるダメージを少しでも軽減できるように職員の配慮事項や居室等環境づくりに努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問時に家族等に困っていること、不安なこと、要望を確認している。また、入居前に事業所へ事前見学にこられた際にも上記のような確認を行い円滑に入居できるような支援に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に「今一番困っていること」を確認するようにしている。事業所として対応可能なことについては遅滞なく対応を行い、対応困難な場合については他事業所等の活用情報の提供や紹介調整を行っている。今後も初期対応の支援が円滑にできるように情報収集とネットワークづくりに努めていきたいと考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者一人ひとりの「できる」こと、能力に応じた家事作業を一緒に実施することで、共に暮らすもの同士という関係に近づこうと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員だけでなく、ご家族にも行事、受診等、できるだけ協力して頂き、ともに本人を支えることができるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事や祭りへの参加など、これまでの生活の中で行っていたことを取り入れるように努めている。入居前の行きつけの散髪屋やパーマ屋、昔通ったお店等への外出支援も行い馴染みの関係の継続支援に努めている。 (外部評価) 利用者や家族から馴染みの場所や交友関係を聞き取り、馴染みの美容室や店に出かけられるよう支援している。車いすを使用している利用者にも、職員が経路などを事前に確認して家族の協力を得ながら、行きづらい場所にあるお墓参りにも行けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者ごとの性格、その場面、場面の感情などの変化を観察、理解し、利用者同士が良好な関わりを持てるようにさりげない支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居した場合であっても気軽に連絡・相談ができるような関係構築に努めていきたいと考えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人に希望や要望を尋ね実現できるよう職員間で話し合い計画を行っているが、すべてを実現するのは困難である。できることから実践し、少しずつ実現に向けてとりくんでいきたいと考えている。 (外部評価) 利用開始前に複数の職員が自宅を訪問し、「どのような暮らしを送りたいか」など、利用者や家族と事前面接を行い、思いや生活の様子を確認している。管理者と職員は利用者の思いを大切に考え、日常の会話の中などで聞いた利用者が今行いたいことを実現できるよう支援している。また、利用者の編み物や盆栽、習字などの趣味を継続できるように働きかけている。思いの把握が困難な利用者には、表情やしぐさからくみ取ったり、返答しやすい声かけを工夫したりするなど、職員間で話し合いながらより良いサービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員は生活歴などを確認し把握するように努めている。また、本人や家族との日々の会話の中から今までの生活状況、環境を聞き取れるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりのその日の心身の状態を表情やバイタル、会話などから把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日頃の本人さんの発言、家族からの意見等について職員会やユニット会などで、さまざまな意見を出しあい介護計画に反映できるように努めている。 (外部評価) 利用者や家族の意向を反映し、職員の意見を聞きながら、計画作成担当者が介護計画を作成している。利用者や家族が見やすく分かりやすい介護計画にする工夫をしており、面会時などに確認してもらい同意を得ている。定期的にモニタリングを行うほか、1週間に1回生活健康管理記録で日々の記録の確認を行い評価をしている。状態の変化や要望のあった場合には、その都度見直しを行い利用者一人ひとりの状態に応じた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の経過記録、生活状況について記録し把握するように努めている。1週間ごとに評価し変化徴候に対して早期に発見、対応できるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 生活を支えるということは、支援の枠組みを広げることと考えている。柔軟な支援や多機能化のためには事業所のみならず、運用についての協力者の発掘に努めていきたいと考えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 個別に活用可能な地域資源を把握し本人が主体的に活用できるように支援して行きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人の病状をよく把握している入居前のかかりつけ医への受診を継続的に支援している。また、かかりつけ医からの情報交換から医療的観察事項や介護上の注意点等の助言をいただいている。</p> <p>(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診することができる。家族が同行する場合には、利用者の受診記録を渡し、受診結果などの情報を共有している。家族が同行できない場合は職員が受診介助をしている。同法人の隣接する特別養護老人ホームから週3回看護師の訪問があり、利用者一人ひとりの細やかな健康管理を行い、緊急時には迅速に対応できる協力体制が築かれている。また、往診可能な協力医を検討している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 近接の特別養護老人ホームから週3回程度、看護職員に來所して頂き、利用者の健康状態の報告、相談、助言を頂き利用者ごとに適切な受診や看護を受けられようとして支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者が入院した場合は、文書にてグループホームでの生活の状況や入院までの経緯、配慮していただきたい申し送り事項等を報告している。また、円滑に入退院ができるように定期的に医療機関のソーシャルワーカーと情報交換を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や終末期ケアについては実践事例がまだない。今後、適切な対応ができるように併設特養の看護師との連携にて勉強会の開催を行いスキルアップに努めるとともに、本人、家族との意向確認を行い終末期に備えていきたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、状態に応じて家族と随時話し合いを行い、管理者は今後予測されることを事前に伝えている。実際に事業所で看取り支援を行った事例はないが、職員が亡くなる寸前まで事業所で支援した経験はある。利用者や家族が事業所での看取り支援を希望し、事業所の方針に同意と主治医や家族の協力が得られる場合には、利用者や家族の意思を尊重し、安心して穏やかな終末期を迎えられるよう体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や初期対応については勉強会を行い実践力の維持に努めている。消防の救急救命講習等に定期的に参加しさらなる実践力を身につけていきたいと考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練等は年2回必ず実施している。今後も定期的にさまざまな想定の実施し職員個々のスキルアップをめざしたい。近設特養とともに地域との協力体制を築いているがさらなる強化をめざしたい。 (外部評価) 自治会と防災協定を結んでおり、災害発生時に地域住民の避難場所として提供する予定としている。また、隣接する同法人の特別養護老人ホームとの災害時の協力体制もある。防災マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。訓練では、実際に2階の利用者が非常階段から避難している。災害時に職員が対応できるかどうか確認するため、消火避難訓練手順理解度チェックリストを事業所独自に作成して、職員に災害発生時に対応できるか抜き打ちで確認し、職員の防災意識を高めている。地震の発生時に備え、家具などが倒れにくい対策を取っているほか、食料等の備蓄品を用意している。	職員全員が災害時の対応手順を理解しているか具体的に書面で確認した際に、不安のある職員もいたため、職員全員が確実に利用者の避難誘導ができるよう、夜間など様々な災害を想定した訓練を繰り返し行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 訪室時や排泄誘導時、入浴支援時などプライバシーを損ねないような言葉かけには常に意識しているが、今後も個々を尊重していくように努めていきたいと考えている。 (外部評価) 日常のケアや声かけなど、あらゆる場面で大きな声を出さないよう気をつけて支援している。言葉づかいや利用者の呼び方などに注意し、利用者の尊厳の保持に努めている。居室の入口の表札は、利用者や家族と相談して苗字のみの記載にする場合もあり、プライバシー確保にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者ごとの行きたい所、したい事など、日々の会話の中で聞きとりを行っているが、なかなか実現することが難しい。1つずつ確認し計画し実行して行けるように取り組んで行きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のその日の状態を観察し、外出、買い物などの気分転換の機会を設けている。一人ひとりのペースを崩さない様に職員間でこころがけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服は、毎日同じものにならないようにさりげなく支援をしている。散髪等は家族の協力を得てなじみの美容室等へ行くように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事を作る場所から、利用者とともに準備を行い参加参加されている。後片付けも積極的に参加できるような雰囲気づくりに配慮している。メニューは利用者からの「食べたいもの」を取り入れるように配慮している。 (外部評価) ユニット毎に職員が利用者の希望を取り入れた献立を作成し、糖尿病等の利用者の食事にも対応した調理をしている。利用者は食事の準備や下ごしらえ、食器拭きなどの手伝いをしている。職員と同じ食卓を囲み、会話をしながら和やかに食事をしている。朝食の時間は特に決めておらず、利用者の起床時間に合わせて食べられるようになっている。また、お好み焼きを利用者と一緒に作ったり、そうめん流しをしたり、外食を取り入れるなど、利用者が食事を楽しめるような支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取カロリーや栄養バランスを考えた献立を作成するように努めている。摂取量も一人ひとりの摂取量の把握に努め、量をさりげなく調整している。水分補給はあきがないようにさまざまな飲み物を用意し選択していただき、こまめに摂取してもらえるように配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、言葉かけを行い口腔ケアを行っている。現状はほとんどの入居者が一部介助で行えているが、今後も毎食後に確実に実行できるように実践していく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄が行えるように支援している。オムツ使用者に対しても、日中は紙パンツ等を使用し排泄記録表や排泄徴候の観察から誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 利用者の排泄の回数や時間帯を把握して、なるべく誘導して気持ち良くトイレで排泄できるよう、一人ひとりに合わせた支援をしている。利用者がトイレに行きやすいよう導線にトイレを設置している。トイレ誘導を行うことにより、紙パンツから布パンツの使用に変更した利用者もあり、残存機能を活かしながら、オムツやパットに頼りすぎない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医から緩下剤を処方されている場合もあるが、必要十分な水分摂取量の確保とヨーグルト、バナナジュース、寒天ゼリーなどを利用者の好みに応じて準備・提供して排便を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の入りたい時間に入浴ができるように工夫している。要望のない利用者に対しては、こちらから言葉かけを行い働きかけている。	
			(外部評価) 職員が入浴介助をしやすいよう左右スライドできる浴槽となっており、片側麻痺などの利用者の状態に合わせて移動して使用している。脱衣場にはカーテンがあり、利用者の羞恥心にも配慮して支援している。浴室は利用者が落ち着いて入浴でき、職員も安全に入浴介助ができる広さに設計している。利用者の状態に合わせて、特別養護老人ホームの機械浴を使用する場合もある。できるだけ利用者の希望する頻度や時間帯に入浴できるように取り組んでいる。また、入浴が楽しめるよう温泉や健康ランドに出かけるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間眠れていない方へは、短時間の昼寝を促し身体や気分を休めるように配慮している。起床や入眠について本人の希望に合わせた対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の種類や副作用についての情報はファイルに綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。また、処方薬が変更になった場合は必ず申し送り、状態の変化の有無を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 外出、食事の準備、散歩など日々の中でそれぞれできる事をしたい時に行ってもらえるように言葉かけを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に合わせた外出支援を心掛けているが、職員の勤務状況により出来ていない時もある。全体での外出行事は月に1度は取り入れているが、今後は個々の希望に対応できるように工夫していきたいと考えている。 (外部評価) 法人の別施設の車を借りて、車いすの利用者と一緒に、藤や紫陽花など季節の花を見に行ったり、県外の健康ランド、夜の太鼓祭りなどに出かけられるよう支援している。日頃から利用者の希望に応じて、外食や喫茶店、買い物などに出かけるなど、一人ひとりの希望をできるだけ実現できるように支援している。「動物と触れ合いたい」という利用者の希望を実現するため県外の動物園に出かけるなど、利用者が笑顔で外出を楽しめるよう心がけている。また、事業所の近くの畑で、職員と一緒に野菜づくりをしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の意向がある場合は、家族に依頼し所持できるように依頼している。外出時、買い物等で使える機会を増やしていくように支援していきたいと考えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から電話をしたいとの要望があれば、直接家族へ通話ができるように支援したり、本人の意向を職員が伝えたりとの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花や馴染みの祭りのポスターなどを飾り会話のキッカケ作りに使用している。記録物などの利用者の生活に関係ないものは、利用者の目の届かないところに保管し生活の場としての雰囲気壊さないように配慮している。</p> <p>(外部評価) 利用者はリビングのソファに座りテレビを見ながらゆったりと過ごすことができる。管理者は事業所の設計段階から立ち上げに関わっており、利用者が暮らしやすく、職員もキッチンとリビング、食堂はどこにいても見渡しやすく、働きやすい環境を整備している。リビングと食堂は違う空間であることを利用者に認識できるようにしている。居室の並びは食堂やリビングを挟んで3部屋ずつに分ける工夫をしており、利用者に自分の居室が分かりやすいようにしている。また、事業所の入口にはAEDを設置し、地域住民も必要時には利用できるようにしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 事業所内の空間ごとに椅子を複数設置して一人ひとりが自由に過ごせるような環境づくりに配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居前に持参品の参考リストを渡し、使い慣れたものを持参するように依頼している。馴染みのタンスや布団、仏壇などを持ち込んでもらい、少しでも安心して安らぐことのできる空間づくりをこころがけている。</p> <p>(外部評価) 居室の入口には木の表札が掛けられている。居室は介護用ベッドと洗面台、エアコンが備え付けられている。コンセントの位置は利用者にとって使いやすい高さに設置されており、利用者の目線で使いやすい工夫をしている。利用者は使い慣れた座いすやテーブルを持ち込み、好みのレイアウトをしている。お位牌を持ちこんでいる利用者もおり、安心して居心地良く過ごせる居室づくりに努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの「できること」「わかること」を活かすために椅子等の家具や生活物品を配置場所を配慮している。今後も定期的に見直しを実施し安全かつ自立した生活がおくれるように工夫していきたいと考えている。</p>	